

平成24年行政事業レビューシート

(環境省)

事業名	奄美地域国立公園指定推進調査費		担当部局庁	自然環境局		作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度	平成21年度		担当課室	国立公園課		課長 桂川 裕樹	
会計区分	一般会計		施策名	5-2 自然環境の保全・再生			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	—		関係する計画、通知等	生物多様性国家戦略2010第1部第4章第2節3			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	アマミノクロウサギに代表される多くの希少固有生物種を育む亜熱帯の照葉樹林を中心に新たな国立公園を指定し、ひいては世界自然遺産登録を目指す。このため、これらの生物多様性の豊かな地域を保全し、その自然と一体となって育まれた文化を実感できる新しいタイプの国立公園の指定を推進し、これに必要な奄美地域における生物多様性の保全と利用のあり方を検討する。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	奄美地域における国立公園の指定のための調査等として、①奄美を代表する希少野生動植物の分布等の調査、②国立公園における生物多様性保全のあり方の検討、③生物多様性と特有の文化を感じることができる国立公園の利用のあり方の検討、④国立公園指定のための公園計画案の作成及び地域における合意形成の推進、⑤指定後の影響を最小限にするためのモニタリング等の実施・検証を行う。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求
		補正予算	24	24	19	11	55
		繰越し等	0	0	0	0	
		計	24	24	19	11	55
	執行額	23	24	19			
	執行率(%)	97	99	99			
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (年度)
	新たな国立公園の指定に向け、奄美地域における生物多様性の保全と利用の質的向上を図るとともに、国立公園指定に向けた合意形成を進める。 国立公園の指定、保全手法、利用のあり方について、関係者との調整を図りながら機運を醸成して合意形成を進めるものであるため、定量的な目標は設定できない。			成果実績	—	—	—
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	新たな国立公園の指定に向け、奄美地域における生物多様性の保全と利用の質的向上を図る調査であるため、定量的事業箇所や件数を示すことができない。			活動実績 (当初見込み)	—	(—)	(—)
単位当たりコスト	—		算出根拠	—			
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由			
	環境保全調査等委託費	11	55				
	計	11	55				

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・状況・予算の	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	奄美地域は国民の関心が高い希少種が生息するなど自然体験やエコツーリズムに適した自然性が高い照葉樹林を中心として国立公園に指定し、保全するものであり、優先度が高い。また、国立公園の指定は自然公園法に基づき環境大臣が行うものであり、国が実施すべき事業である。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ・使途・費目・	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	一般競争入札(総合評価落札方式)により競争性を確保した支出先の選定を行い、最終的に委託費の清算手続きの中で、資金の流れ、費目、使途の真に必要なものへの限定が行われている。
	—	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績・成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	本事業に基づく国立公園における生物多様性保全のあり方や生物多様性と特有の文化を感じることができる利用のあり方の検討を通じて、国立公園指定に向けた地域の合意形成が着実に進みつつある。
	—	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	—	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。 ※類似事業名とその所管部局・府省名	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>環境省において、発注時点からその内容を把握しながら実施するとともに、奄美地域を担当する那覇自然環境事務所及び奄美自然保護官が、当該事業の執行に際しては、期間全体にわたって指導・監督に努めており、使途の把握水準は確保されている。</p> <p>特に、現地調査に関する連絡調整、会議開催内容等について事前指導を行った上で会議に出席するとともに、調査実施前には調査計画(時期、内容、体制等)や使用する備品等についても確認し、必要な助言・指導を行っている。</p> <p>また、本事業は、奄美地域の国立公園化と世界自然遺産登録を視野に入れ実施しているものであり、既存データの収集に加え、現地調査を実施し、現地調査等により得られた情報を効率的に活用することで、我が国の生物多様性保全の観点から見た奄美地域の位置づけを整理し、生物多様性保全及び生態系ネットワークの確保の観点から、効果的に国立公園として保全すべき重要な区域について保全管理手法の検討を行った。また、予算監視・効率化チームの指摘を踏まえ、事業内容を精査して予算額を節減して事業を実施した。これらのことから、国立公園の指定に向けた生物多様性の適切な保全と利用が着実かつ効率的に進められている。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	人件費、調査旅費等を見直し、事業を効率的に実施することにより、予算額を節減すべき。		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
縮減	本事業と「遺産地域等貴重な自然環境保全推進費」の一部を整理統合し、一体的に実施することにより、効率的に実施するよう努めることとし、概算要求額を減額		
補記 (過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	177	平成23年行政事業レビュー	170

環境省  
19百万円

奄美地域における国立公園の指定のための調査等として、奄美を代表する希少野生動植物の分布等の調査、国立公園における生物多様性保全のあり方の検討、生物多様性と特有の文化を感じることができる国立公園の利用のあり方の検討、国立公園指定のための公園計画案の作成及び地域における合意形成の推進、指定後の影響を最小限にするためのモニタリング等の実施・検証を行う。



【一般競争入札(総合評価)】

A.(株)プレック研究所  
19百万円

奄美地域における国立公園の指定のための調査等として、奄美地域の国立公園における森林の適正利用方策に関する検討会の実施、亜熱帯照葉樹林の森林生態系管理手法の検討及びGISデータ等を活用した国立公園指定等に関する図面作成を実施する。

資金の流れ  
(資金の受け  
取り先が何を  
行っているか  
について補足  
する) (単  
位: 百万円)

A.(株)プレック研究所					
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
人件費	のべ、234人	14			
旅費	検討会、打ち合わせ、現地調査旅費	2			
その他	謝金、会場借料、印刷製本費等	3			
計		19	計		0
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途  
 (「資金の流れ」  
 においてブロッ  
 クごとに最大の  
 金額が支出され  
 ている者につい  
 て記載する。費  
 目と使途の双方  
 で実情が分かる  
 ように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)プレック研究所	奄美地域の国立公園における森林の適正な管理及び利用方策の検討調査等委託業務	19	1	98